

ほっかいどう

広報紙

150

2018年は、北海道命名150年
その先の、道へ。北海道

年5回発行
5・7・9・11・2月の下旬

北海道

当たる!
道産品
裏表紙を子エック!

2018年
8月号
平成30年7月発行
通巻226号

【特集】みんなで支えよう!子どもの未来づくり

地域ぐるみで子育てを応援! 子どもの健やかな成長は 私たちみんなの願いです。

北海道に暮らす子どもたちが健やかに成長できるように、
身近な地域でできる応援をしてみませんか。



安心して生み育てられる 環境づくり

子どもたちの輝く笑顔は、地域の活力です。将来を担う子どもたちの成長を、地域ぐるみで応援する環境づくりが大切です。

全国的に少子化が進む中、道は平成16年、少子化対策の条例を全国に先駆けて制定しました。以降10年間にわたって対策に取り組んできた中で、本道の合計特殊出生率は上昇傾向にありますが、平成29年は全国平均の1.43を下回る1.29と全国で2番目に低い水準で、依然として少子化に歯止めがかかっていないのが現状です。

これには、核家族化のほか、仕事と家庭を両立できる環境の一層の整備など、さまざまな要因があるものと考えられます。

このため道では、平成27年度からの「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」に基づく取り組みとして、北海道の特性を十分に生かしながら「安心して子どもを生み育てることができる環境」「子どもが健やかに成長できる環境」という二つの環境づくりを進めています。

※一人の女性が1日に産む子どもの数に相当するもの

地域全体で子育て家庭を応援するために

人口減少問題の解決に向けて、少子化対策を進めることは重要な課題の一つです。このため道では、道民一人一人が「妊娠・出産」「子育て」などの各ライフステージに応じた切れ目のない支援を受けることができ、住み慣れた地域の中で、健やかにいきいきと暮らすことができる社会の実現を目指しています。

具体的には、市町村や企業などと連携し、乳幼児の医療費給付や妊産婦への交通費助成、保育料の無償化などの経済的支援のほか、子育てに関する情報提供や子育て世帯を応援する協賛企業の拡大、子育て支援拠点などの相談体制の整備、ひとり親家庭などへの支援などにより、地域全体で子育て家庭を応援する環境整備を進めています。

地域の支援の輪を広げるために

北海道では、全国に比べて生活保護世帯やひとり親家庭の割合が高く、経済的に厳しい家庭が多い状況です。

道が平成28年に実施した子どもの生活実態調査からは、所得が低い世帯ほどさまざまな困難に直面する可能性が高く、「必要な医療受診を控える」「支援制度の情報十分に伝わっていない」「進学に対する子ども本人の希望や保護者の期待が低い」など、家庭の経済状況が子どもの日常生活や進学希望などに影響があると考えられます。

近年、子どもの成長を地域で支え、安心して過ごせる場をつくろうと、子ども食堂をはじめとする子どもの居場所づくりが各地で進められています。

中面では、子どもの未来づくりの詳しい取り組みについて紹介します。

ほっかい家族

代表：ワタモトマコト (第1回北のまんが大賞 大野愛樹)

夏だーっ!!
夏といえは...
海!
山!!
そしてサイサイ
災害から身を守ろう!
サイサイ

夏に気をつける災害は何か?
詳しくは中面へ

▶特集に関するお問い合わせ 道庁子ども子育て支援課 ☎(011)204-5235 北海道 ハグワム 検索

発行/北海道総合政策部知事室広報広聴課 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 ☎(011)204-5110 FAX(011)232-3796



図書館や書店に恵まれない地域をサポート中

一般社団法人北海道ブックシェアリング/江別市

学校図書館の蔵書が少なかったり、自治体に書店がなかったり、読書環境に恵まれない地域をサポートしようと、2008年から活動を開始した北海道ブックシェアリング。読み終えた本の再活用をはじめ、商店街でお薦めの本を紹介し合う書評合戦の開催や、喜茂別町、妹背牛町、鹿部町、西興部村など書店のない地域に出かける「走る木屋さん」にも取り組みました。



移動図書館車(喜茂別町)

現在はそのノウハウを生かし、道内各地の要望に応じて、約800冊の本をのせた移動図書車両の出動、絵本カバー工作や古本を交換する図書イベントの開催など、木と人をつなぐ「ぶっくばーとなー」活動を実施。読書環境を向上させるための相談なども行っています。

絵本でまちおこしに成功した地域もあれば、なかなか新しい図書に更新できない学校があるなど、道内の読書環境の差は大きいですね。隣まちに図書館や書店があっても、車で1時間もかかれば、読書習慣は消えていきます。

木は、物語を楽しむだけでなく、自分の仕事につなげたり、人生や生活のヒントも教えてくれるもの。どこに暮らしていても、木と出合える喜びを感じられるように、道内各地でサポートしたいですね。

▶お問い合わせ 北海道ブックシェアリング ☎(011)378-4195

ほっかいどう 未来への元気遺産!

北海道を元気にする人・もの・アイデアを紹介します。本でつながる編

世界の絵本でニセコの子どもたちと国際交流

国際ナショナル・リーディング・プロジェクト/ニセコ町

海外からの観光客が多く、人口5,115人のうち33カ国の外国人378人が暮らすニセコ町。地域の国際化を進めるため、町職員にドイツ、米国、アイルランド、中国出身の国際交流員がおり、子どもたちへ日本語と外国語で絵本を読み聞かせる「国際ナショナル・リーディング・プロジェクト」に取り組んでいます。

子どものうちから世界の言葉や文化の違いに触れてもらおうと、読み聞かせボランティアたちと協力し、学習交流センター「あそぶっく」や小学校などで活動を続けています。知る機会の少ないアイルランド語を学んだり、数カ国語で挨拶のできる子が増えたり、絵本を通して国際色豊かな地域づくりが進んでいます。×ニセコ町調べ(2018年3月現在)



あそぶっくでの読み聞かせ活動

本と出合える喜びを道内各地に広めたい。



北海道ブックシェアリング代表理事 荒井 宏明さん

絵本の読み聞かせを始めたのは、発展途上国で貧困な子育て環境にカルチャーショックを受けたのがきっかけ。世界にはいろいろな国があることを子どもたちに知ってほしい。絵本なら、絵の表情や色合い、言葉のリズムからも、その国の生活や文化が伝わると考え、帰国後、32年間ライフワークとして続けてきました。

ニセコ町に移り住んで9年。自宅の文庫にある22カ国の原書絵本をこのプロジェクトに役立てています。多国籍なニセコだからできる多言語による読み聞かせ活動だと思います。

▶お問い合わせ ニセコ町企画環境課 ☎(0136)44-2121

多国籍なニセコだからできる活動があります。



国際ナショナル・リーディング・プロジェクトボランティア 本間 真由美さん(絵本作家)

北海道150年 なるほど!知るほど!物語

北海道ならではの食の由来や知られざる歴史を紹介します。

大正時代から走る、国内唯一の石炭鉄道/釧路市

かつて北海道の発展を担った石炭産業。国内で坑内掘り続けている炭鉱は、釧路の海底炭鉱のみです。1920(大正9)年に創業した太平洋炭礦は、最盛期には日本有数の採炭量を誇りました。2002(平成14)年の閉山後、優れた採炭技術を後世に残すため、海外への技術指導などを目的に、釧路コールマインが採炭業務を再開。その石炭を専用に運んでいるのが、1925(大正14)年に開通した臨港線(港湾地区を走る鉄道)で、いまでは国内唯一の石炭鉄道です。



石炭輸送専用列車

海面下約200mから採掘した石炭は、貨車24両(積載量720トン)に積み込まれ、港近くの貯炭場まで約4km運ばれています。その雄姿を春採湖の散策路から間近に見ることができます。

▶お問い合わせ 太平洋石炭販売輸送(株)釧路本社 ☎(0154)41-9155

当たる!おいしい北海道

(株)ケイシイシイ「ルタオ 小樽色内通り プロマージュ」(18枚入)をプレゼント!

次のアンケートに答えて道産品を当てよう!

- 8月号の中で興味を持ったのは、どの記事ですか。
- ①特集(みんなで支えよう!子どもの未来づくり)
- ②こんにちは!赤れんが ③おすすめ!地域から
- ④みんなの防災ガイド ⑤未来への元気遺産!
- ⑥なるほど!知るほど!物語

●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

●応募方法:アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、

ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。

●応募期限:8月31日(金)必着 応募いただいた方の個人情報類は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。

●応募先:ハガキ ☎060-8588(住所不要)

北海道広報広聴課「当たる!おいしい北海道」係

パソコン 広報紙ほっかいどう 検索

●掲載記事の関連ページ、印刷版アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧も上記からアクセスできます。※6月号のプレゼントには、3,397件の応募をいただきました。



抽選で30名様



北海道の人口	総人口	男	女	※人口は毎月公表される統計資料に基づき直前のデータを掲載しています。
平成30年5月末	5,317,666人	2,511,562人	2,806,104人	
前年同月比	34,447人減	16,279人減	18,168人増	

次号のお知らせ 10月号は9月19日(水)に配布開始の予定です。

お詫びと訂正 2018年6月号の本紙中記事「インバウンドの加速化と球く製地の「原産」の外国人消費者の推移」に誤りがありましたので、次の通り訂正してお詫びします。
 掲:2016年度 223万人 正:2016年度 230万人

広告

チェック 食中毒菌やウイルスをつけない「清潔」増やさない「迅速または冷却」やっつける「加熱と殺菌」。三つの原則を守り食中毒を予防しよう!

※この広報紙は、広帯域の普及性において北海道を総称しているものです。